

# 川西正氏所蔵資料に関する一考察

地方史班（徳島地方史研究会）

松下 師一\*

**要旨：**前・東みよし町文化財保護審議会委員の川西正氏が収集・保管する歴史資料5件（6点）を調査・分析した。天狗久作と推察される木偶人形頭（猿）には、下顎のカラクリに人形師の工夫が伺える。白式尉・黒式尉の面と木偶人形の手（左右）については、あまり情報を得ることができなかった。軸装された古文書については、幕末に長崎から阿波国三好郡太刀野村へ配達された荷物に添付された「手形」であり、長崎に返送されず阿波に残った珍しい事例である。

**キーワード：**川西正，人形芝居，木偶人形頭，白式尉・黒式尉，手形，大黄，甘草，長崎恵美須町，長崎宿老

## 1. はじめに

東みよし町歴史民俗資料館での古文書調査の際、川西正氏（前・同町文化財保護審議会委員）から、同氏が収集・保管する歴史資料の調査依頼があった。

当該資料は、次のとおりである。

- |              |          |   |
|--------------|----------|---|
| *            | *        | * |
| ① 木偶人形頭（猿）   | 1点（紙箱有り） |   |
| ② 白式尉・黒式尉の面  | 1対（木箱有り） |   |
| ③ 木偶人形の手（左右） | 1対       |   |
| ④ 軸（古文書を表装）  | 1点       |   |
| ⑤ 軸装書画       | 2点       |   |

本稿では、このうち人形芝居に関する資料（上記①～③）と、軸装された古文書（上記④）について、若干の分析と考察を行ってみたい。

なお、軸装絵画2点（上記⑤）については、本稿締め切りまでに十分な分析と考察ができなかった。別の機会としたい。

## 2. 人形浄瑠璃関係資料について

### 1) 木偶人形頭（猿）

この木偶人形頭は、旧三加茂町内の旧家が解体される際に、廃材とともに廃棄される寸前のところを、川西氏が収集したものである。[写真1]を見てのとおり、「猿」の頭であり、口（顎）の部分にカラクリがあり開閉する。開閉のため隙間ができるはず



写真1 「木偶人形頭（猿）」正面から撮影

\* 徳島地方史研究会会員

の下顎の部分は、うまく布を張って繋がれており〔写真2〕、よりリアリティを追求した人形師の工夫(技)が伺える。

心串(大阪の文楽でいう「胴串」)には「天狗久」の焼印があり〔写真3〕、名人・天狗久の作品であると推察される。ただ、「天狗久」の焼印には模造品もあると見聞されることから、念のため筆者が勤務する松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館所蔵の天狗久の焼印と比較してみる。

天狗久の焼印は、頭の制作年代等により複数の種類があるのだが、〔写真3〕の焼印は〔写真4〕の焼印と類似性が高いように思われる。〔写真4〕の焼印は、松茂町資料館所蔵「おつる」〔写真5〕のもので、同頭の内部には「徳島県名東郡国府町和田天狗屋久吉作之」という墨書銘が記されている。残念ながら年記は無いが、国府町が町制を施行したのが明治41年(1908)のことであるから、それ以降で天狗久が没する昭和18年(1943)までの間に使用された焼印である。

川西氏の木偶人形頭(猿)についても、頭内部の銘を確認することにより、詳細で確実な情報を得ることができるのだが、内部の調査には頭表面の塗りの剥離をとまなうことから、今回の調査では保存を優先して実施しなかった。

#### 〔附記〕

内部の銘は必ずしも記されているわけではない。記されていない例も多々ある。現状、この頭の保存状態は優良であり、今後とも、あえて塗りを剥離する調査を実施することには賛成できない。何らかの非破壊検査が望まれるところである。

#### 2) 白式尉・黒式尉の面

全国的には「白式尉・黒式尉の面」といえば、能の面が想起されるのであるが、阿波・徳島では専ら人形芝居の三番叟さんばそうの面である。

川西氏所蔵の面〔写真6〕も大きさから判断して人形芝居のもので、三番叟廻し芸人等が使用しているものと同種のもので推察される。面を納める木箱〔写真7〕は煤すすけており、使用する時期以外かまどは竈の煙が回る屋根裏などに保管されていたのかも知れない。



写真2 下顎の隙間をふさぐ工夫



写真3 心串にある「天狗久」の焼印



写真4 類似性の高い「天狗久」の焼印



写真5 天狗久作「おつる」頭(松茂町資料館蔵)

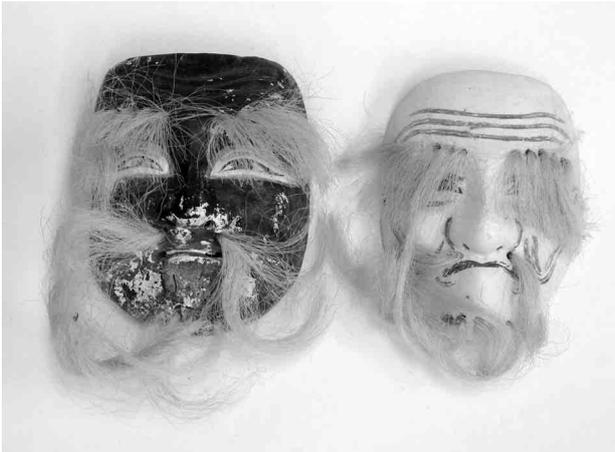
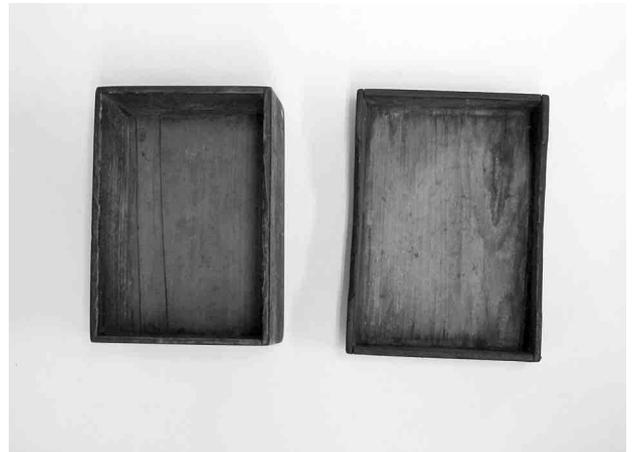


写真6 白式尉・黒式尉の面



写真7 面が納められていた木箱



念のため、徳島県立博物館の赤外線カメラを使用して、煤の下の文字の有無を調査したが、残念ながら文字は確認できなかった。

### 3) 木偶人形の手 (左右)

左右1対の木偶人形の手が収集・保管されている。指の関節の曲がりからして、女性の人形に使用された左右の手である〔写真8〕。

### 3. 軸装された古文書について

古文書〔写真9〕及び翻刻を、次に掲げる。

この文書は、元治元年(1864)10月に、長崎恵美須町の肥後屋嘉四郎から、三好郡太刀野村(現在の三好市三野町)の嶋屋角兵衛へ送られた荷物に付随した「手形」である。本来「手形」は、発送主から荷物とともに配達先へ送られ、無事に荷物が到着した後は、再び発送主へ送り返される文書である。

しかし、幕末の混乱期故であろうか、それとも他

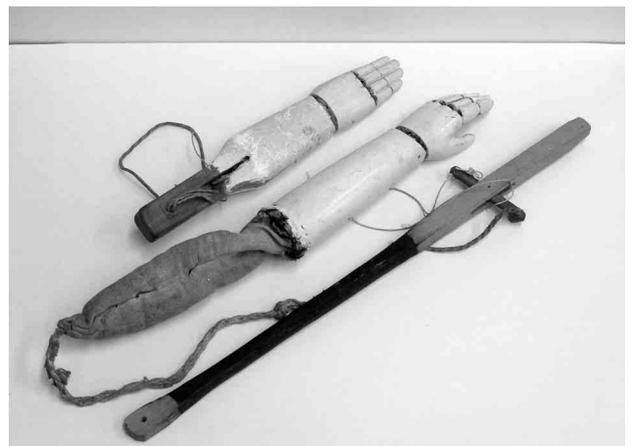


写真8 木偶人形の手 (左右)

の理由からなのか、この「手形」は再び長崎へ送り返されることなく、150年近く三好郡で受け継がれたものである。

ちなみに配達された荷物は漢方薬の原料の「大黄」と「甘草」で、恐らく輸入品なのであろう。文書の

奥書として、対外貿易を所管する長崎宿老 林熊十郎の署名・押印もある。

なお、近世後期から幕末維新期の長崎に関する古文書を多数収蔵する「武藤文庫」（長崎大学附属図書館経済学部分館所蔵）の目録（同大学ホームページで公開）を見ると、幕末の長崎宿老として「林熊十郎」の名が確認できる一方で、「長崎恵美須町肥後屋嘉四郎」の名は見られない。現状、肥後屋嘉四郎の履歴は不明である。

#### 4. むすびにかえて

以上、川西正氏（前・東みよし町文化財保護審議会委員）が収集・保管する歴史資料のうち、人形芝居に関する資料と、軸装された古文書について、若干の分析と考察を行った。

いずれの資料においても不明な点は残るが、それぞれ学術的に貴重な資料であり、今後も状態良く保存されることを切に望みたい。



写真9 軸装された古文書（長崎から阿波国三好郡宛ての「手形」）

<p>□商荷物</p> <p>一、極上 大黃 改老櫃 但百四拾式斤入</p> <p>広（唐カ）方□伝荷物</p> <p>一、極上 甘草 改老丸 但百式拾斤入</p> <p>荷数合老櫃老丸</p> <p>右荷物此度御改ヲ請、其許江壳渡申候處、 実証也、開荷次第、其御地御役人江被仰出、 御改被受候上、荷物御請取可被成候、右御改 相濟候ハハ、其旨此手板之御表書被仰請、 此手板此方江御差返シ可被成候、当地御掛之 御役人相納申候、勿論荷物痛等之儀者 可為 御法者也、仍而如件</p> <p>長崎恵美須町</p> <p>元治元年子十月 肥後屋嘉四郎 ㊦</p> <p>阿州三好郡大刀野村</p> <p>嶋屋角兵衛殿</p> <p>表書之通承届之候、以上</p> <p>長崎宿老</p> <p>子十月廿三日 林 熊十郎 ㊦</p> <p>手板突合印 ㊦</p>	<p>手板</p>
---	-----------

最後になるが、貴重な資料の調査をお許しくださった川西正氏に心からの感謝を申し上げ、稿を閉じることにする。

〔参考文献等〕

「旧名東郡地区」(三好昭一郎ほか編『日本歴史地名大系第37巻・徳島県の地名』平凡社, 2000年)  
柚木学「手板」(『国史大辞典』, オンラインデータベース・ジャパンナレッジ[<http://www.jpanknowledge.com>], 参照2013年1月20日)

中田易直「糸割符宿老」(同上)  
長崎大学附属図書館経済学部分館所蔵「武藤文庫」目録  
[<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/search/ecolle/muto/index.html>]

〔調査協力機関〕

徳島県立博物館  
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館  
阿波木偶箱まわし保存会

---

Research and consideration about the cultural assets owned by Mr. KAWANISHI Tadashi

MATSUSHITA Norihito,

Proceedings of Awagakkai, No. 59(2013), pp.185-189